

イギリスにおける 職業能力評価制度の概要

労働政策研究・研修機構
2013.12.13

1. 制度導入の経緯

- ・NVQ導入の目的
 - 一各業種で独自に形成された能力評価制度の標準化
 - 能力開発政策推進により国際競争力の回復を志向
 - 一知識・技術より、職場での作業実行能力を重視
 - 一学業資格等と対応付けたNQF(全国資格枠組み)の導入
- ・QCF(資格・単位枠組み)への移行
 - 一NVQ取得にはまとまった期間を要し、途中で脱落した場合はそれまでの訓練は無駄になるという問題
 - 各資格をより小さい単位(ユニット)に分割・再構成、段階的で柔軟な資格取得を可能に
 - 各ユニットの学習に要する時間をクレジットで表現、所要期間の把握が容易に
 - ユニットを規格化、資格間で共通するユニットは一度履修すれば他の資格取得時でも有効に

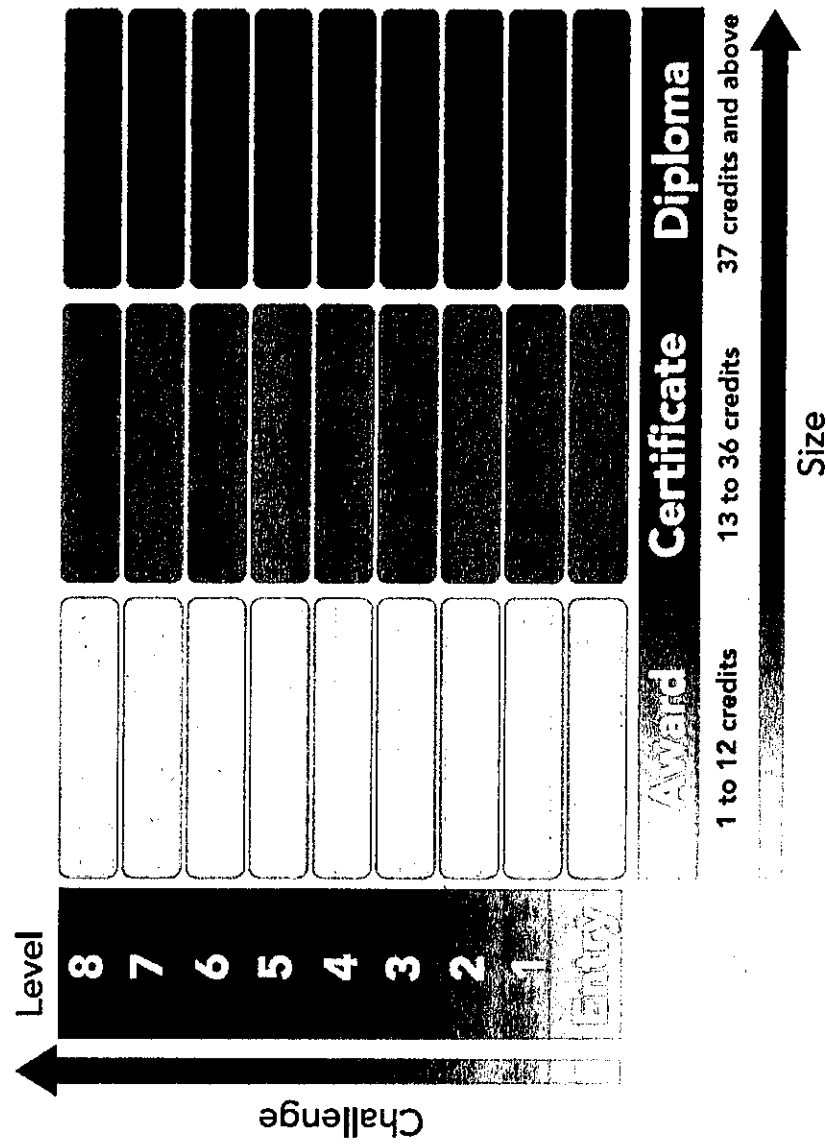
2. 職業・教育資格の対応づけ

レベル	能力要件(QCF)	教育資格
導入	訓練受講準備	
1	指示を受けながら作業を完了できる	GCSE グレードD-G
2	作業の手順を憶えて作業ができる。作業中に少し変わったことがあっても対応できる。	GCSE グレードC-A
3	憶えた作業手順から適切なものを自分で選んで、一つのとまった作業ができる。	AS/A International Baccalaureate
4	単純作業以外で問題があった場合に、問題点が明らかであれば対応できる。	准学士 Certificates of Higher Education
5	問題がどこにあるかの判断がさほど困難でない場合は、習得した知識に基づいて対応できる	准学士 Diplomas of Higher Education
6	問題解決の方法が限られている場合、習得した知識を応用して対応することができる	学士課程修了
7	習得した理論や方法論に基づいて問題解決ができる	修士課程修了
8	問題解決に関する独自の方法を開発できる。	博士課程修了

出典: QCA/Ofqual (2008) "Regulatory arrangements for the Qualifications and Credit Framework"を元に、内容を簡略化。

3. QCFの構成

- ・レベルにより難易度を、クレジット数を、クレジット数により取得に要する時間を表現(1クレジット=およそ10時間の学習)



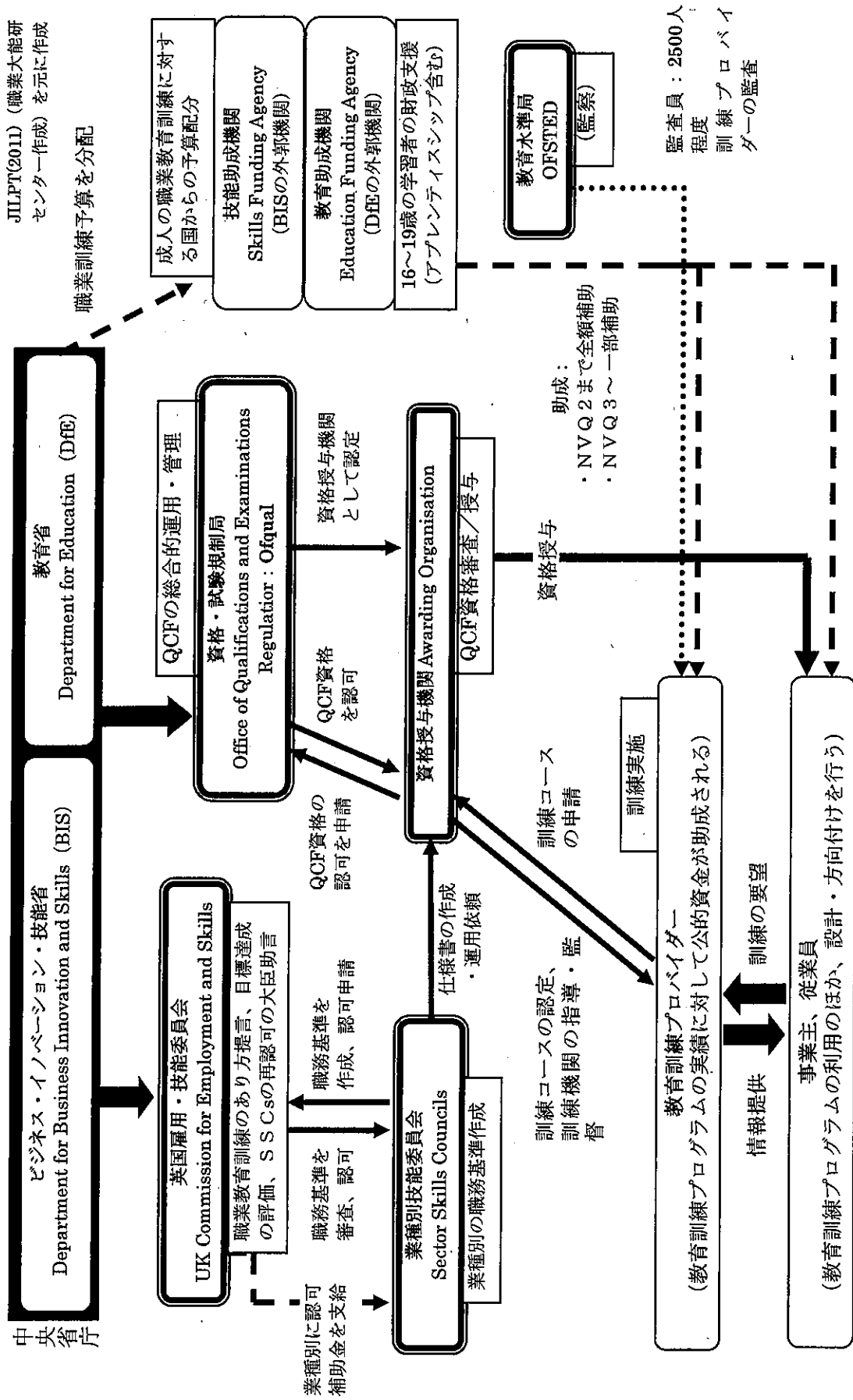
出典: QCA/Ofqual (2008) "Regulatory arrangements for the Qualifications and Credit Framework"

4. QCFの能力要件

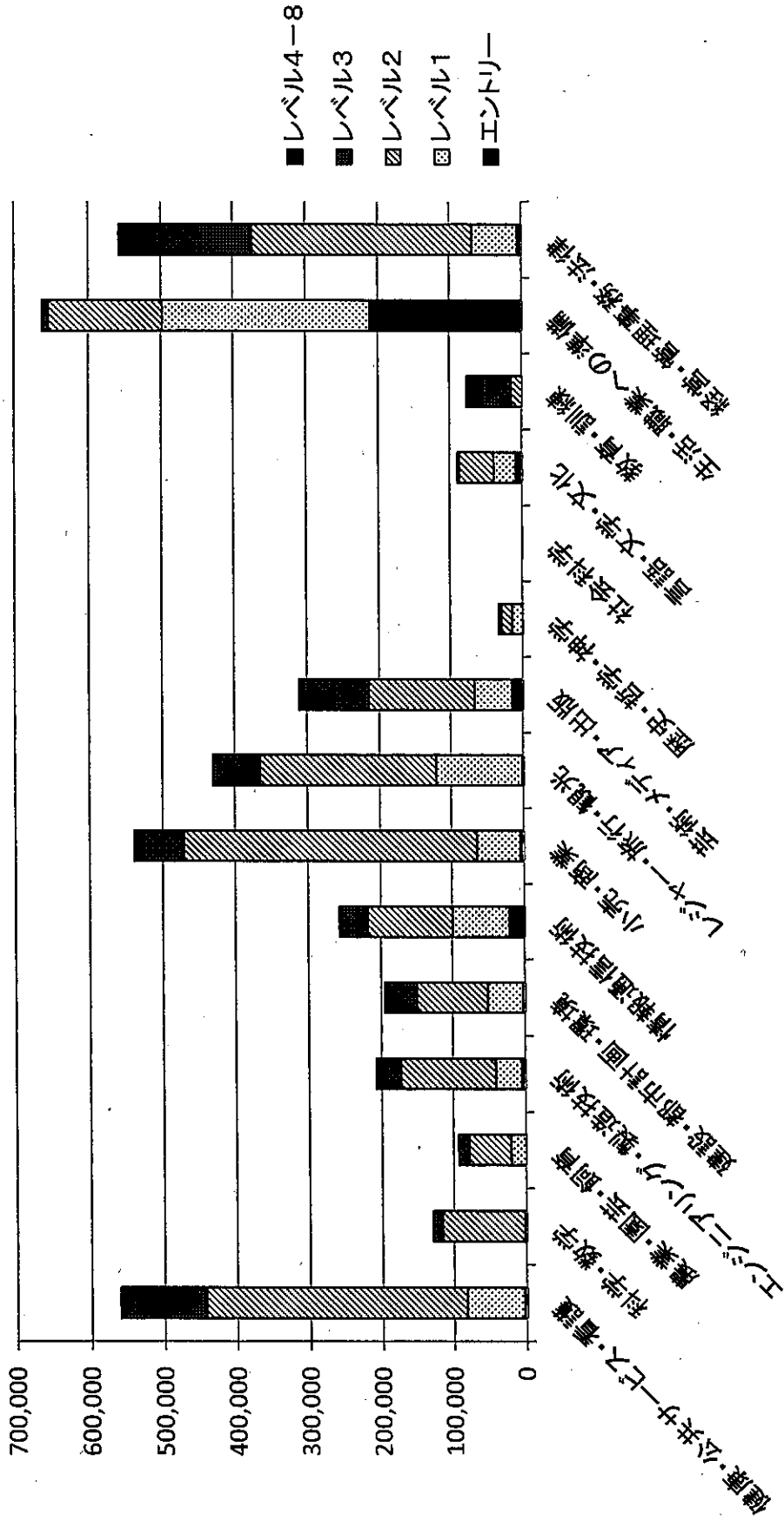
能力要件	
レベル	訓練受講準備
1	適当な方法、技能、手順を使って単純作業を完了することができる。指示のもとで行う仕事や手続きを完了することができる。
2	教えられたことを思いだし、習得した技能を使って単純作業を完了することができる。作業上の簡単な問題に自分で対応できる。作業全体に関する指示を理解し、自分で判断して作業や手続きを完了することができる。
3	教えられた知識や技術、手順の中から、適切なものを選んで作業を完了することができる。単純作業の中でも多少複雑な問題に対応することができる。作業の開始から完了まで自分で行うことができ、限られた範囲内では自分の判断で作業を進めることができる。また、一つのことを修得したり作業を行ったりするためにいろいろな考え方や方法があることを理解する。
4	問題点は明らかであるが複数の要素を含み規定の手順では対応できない場合に、習得した知識、方法、技術の中から適切なものを選んで事態に対処することができる。かなり広範囲の業務において自分で判断し作業を実行し、一つの問題全体に対して責任を持つことができる。また、このレベルは取得者が一つのことを修得したり作業を行ったりするための様々な方法や見解を理解していることを示す。
5	問題点がある程度明らかで、複雑な要素を含む場合、習得した知識、方法、技術の中から適切なものを選んで事態に対処することができる。広範囲の業務において自分で判断し作業を実行し、業務活動の計画と開発に責任を持つことができる。また、このレベルは取得者が様々な見解、方法、思考体系とその説明を理解していることを示す。
6	複雑ではあるが問題点の解決方法が限られている場合、習得した知識、方法、技術を先鋭化して応用することができる。広範囲にわたって自主性と判断力を持ち、かなり大きな変化や開発の基礎となる業務活動の計画と開発に責任を持つ。また、このレベルは取得者が様々な見解、方法、思考体系とその理論を理解していることを示す。
7	多数の要素が入り組む複雑な問題に対して、方法論や解決法の中から適切なものを状況に合わせて構成し直して状況に対処する。広範囲にわたって自主性と判断力を持ち、かなり大きな変化や開発の基礎となる業務活動の計画と開発に責任を持つ。また、このレベルは取得者が関連する理論と方法論に基づいて見解を理解し、それが自分の学習や業務にどのような影響があるか理解していることを示す。
8	独自の理論を開発し専門分野における知識をさらに広げる。複雑に入り組んだ要素を含む問題や状況を解決するためには調査研究や対立戦略を独自に開発し実行する能力がある。関連分野の知識や活動の開発や専門業務または組織的な改革実行のために、広範囲の自主性を持ち判断力や指導力を発揮していく。また、このレベルは取得者が関連する理論と方法論に関する批判的見解力を持ち、それが関連する知識分野や業務にどのような影響があるか理解していることを示す。

出典：QCA/Ofqual (2008) "Regulatory arrangements for the Qualifications and Credit Framework"

5. QCF推進体制



6. 分野・レベル別QCF資格取得件数(2011年度)



出典: The Data Serviceウェブサイト (<http://www.thedata-service.org.uk/>)

7. 外部市場での利用状況

- ・職業資格の保有を要件とする求人は少ない
 - －業界・労働者に対して資格保有に関する何らかの規制が設けられている場合(例：介護)
 - 保有資格は要件というよりも考慮の対象の場合が多く、むしろ職務経験を要件として強調
 - 入職後の昇進の際もほぼ同様か(未検証)
 - －中級以上の能力評価制度の利用は限定的
- ・アプレントイスシップの評価が高い
 - －実際の職場での実務訓練、理論に関する座学により職務遂行能力・技術的知識に関するQCF資格を取得、併せて英語・数学・ITなど就業に必要な基礎的スキルを習得
 - －対象者は外部からの受け入れまたは既存の従業員